

## 山田風太郎『人間臨終図鑑』

吉田 真人

山田風太郎は、15歳の八百屋お七から始まり、121歳の泉重千代まで、古今東西の著名人923人の死に様と生き様を、『人間臨終図鑑』全4巻に描いた。

78歳は、周恩来や藤原義江等16人。

ルノアールは、次のように書かれている。

若い時、自転車事故で右腕を骨折。後遺症としての変性リウマチが、右手を、さらに四肢を蝕み、ついに歩行不随意となる。「66歳のころ、毎朝、折りたたみ寝台に寝かされたまま二階のアトリエに運びあげられ…厚手の包帯で包まれた人差し指と親指の間に絵筆をさしはさんでもらう。そして描きはじめる。苦痛にゆがむ彼の手は、しかしカンヴァスの上に、寸分の狂いもない豊麗な傑作を創り出してゆく。」

各所で彼の絵を見ている。偶然、画家が描いた年齢と、私とその絵を見た時の年齢が同じだったことが2度あるので、親しみを感じている。

ロンドンのナショナルギャラリーで「Dancing Girl with Tambourine」と「Dancing Girl with Castanets」の2枚を10年前に見た。画家68歳の時の絵だ。等身大に近い大きさと、印象派の部屋の扉を挟んで左右に飾られている。タイトルはGirlで、そう見えなくもないが、むしろ豊穡な熟女という感じでもある。画家の過去への思いと、現在への執着がない交ぜになっているのか？

倉敷の大原美術館を5年前に訪問。画家72歳時の作品「泉による女」を見た。こちらの絵は少女と謳ってなく、やや遠い日の感じである。

77歳は、五島慶太やフルシチョフ等17名。

印象的なのは鳥居耀蔵で、「頑迷強烈な洋学ぎらいから、江戸南町奉行として渡辺華山、高野長英ら多くの英才を罪におとし『天保の妖怪』と呼ばれた」。水野忠邦の失脚と共に町奉行を免ぜられ、多年の禁固に処せられた。

70余歳となっても、強健にして衰えず、木綿紋付きの服に袴を着し、厳然たる町奉行の威を  
具えたり。「天保の改革の失敗の責任や、華山などを窮死させた罪など、頭の隅にも意識してい  
なかったようだ。死んでも反省しない男の亀鑑。」 こういう御仁は現在にも多い？

(2023年9月14日)



Dancing Girl with Tambourine

1909年 155.0\*64.8



Dancing Girl with Castanets

1909年 155.0\*64.8



泉による女

1914年 92.0\*73.5